

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（－：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連  (北海道)	◎	商店街（代表者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスが5類感染症になってから、徐々に来客数が増えている。商店街のイベント開催も例年どおりに行われるようになり、コロナ禍前よりも人出が増えている。
	◎	商店街（代表者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの5類感染症への移行以降、順調に人出が増えてきている。特に高齢者が出掛けている様子がかげえ、安どしている。まだコロナ禍前の水準には達していないが、大分近づきつつある。イベントなどへの集客も順調なことから、今後は大きく期待できそうだ。
	◎	一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・夏休み前にもかかわらず、小規模団体の旅行客がかなり増えている。特に年配者を中心とした団体が多数。年配者は購買意欲が強いので、客単価も必然的に上がっており、売上にも貢献している。また、修学旅行の行き先が海外から国内にシフトしていることもあって、修学旅行生が数年前よりも増えている。その効果も大きく、売上に貢献している。
	◎	一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・6月に入り、売上が順調に回復している。日によるばらつきも少なくなっている。売上はコロナ禍前の2019年の水準に戻っている。
	◎	観光型ホテル（スタッフ）	単価の動き	・季節要因に加えて、昨今の物価上昇の影響が宿泊価格にも反映され、客単価が上がっているものの、予約は顕著に伸びている。
	◎	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・国内航空需要はビジネス会議のWeb移行などに伴う減少分を埋められないといわれており、コロナ禍前と比べると5%前後減少している。一方、観光需要は、初夏を迎えて北海道を訪れる観光客が増加しており、ほぼ回復したとみられる。ただ、宿泊、飲食、販売などの受入れ側の人手不足が課題となっている。
	○	商店街（代表者）	来客数の動き	・6月に入っても、地元客の動静は変わらないものの、道内外からの観光客が若干増加している。街中を歩いているときに店舗の場所を聞かれることが少しずつ増えており、旅行者とみられる人が買物袋を携行して歩いている姿を見掛けることも増えている。また、区域内ホテルの駐車場も満車表示の日が徐々に増えており、他都市からの旅行者が増加していることがうかがえる。
	○	一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・6月の売上は2022年比195.2%、2021年比1552.7%、2020年比998.5%となっている。コロナ禍前の2019年と比べても107.1%となっている。
	○	百貨店（売場主任）	来客数の動き	・道外客や外国人客の来客数が増えている。
	○	百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・国内からの観光客を中心に来道者が増加しており、それに伴って来客数も増加傾向にある。また、物価上昇に伴って、客単価も上昇傾向にある。
	○	百貨店（マネージャー）	販売量の動き	・来客数はコロナ禍前の水準までには回復していないが、ファッション部門を中心に買上客数、客単価、販売量のいずれも2けた増で推移していることから、景気は良くなっている。
	○	スーパー（従業員）	単価の動き	・人件費の上昇及び光熱費の高騰にどこまで対応できるかにもよるが、景気はやや良くなっている。
	○	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・一時期の落ち込みから回復するなど、トレンドが変化している。来客数も増加しているが、観光需要の多い店舗は不安定な状態が続いているため、更なるインバウンド需要の取り込みを期待している。
	○	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・卵の流通量が不足していることで、卵の納品時間を目指して来店する客が増えている。買い回り品の販売量も伸びている。
	○	家電量販店（店員）	来客数の動き	・6月後半になり、気温が上昇するとともに夏物家電の動きが良くなっており、前年をやや上回っている。
○	乗用車販売店（経営者）	来客数の動き	・新型車の発表に伴い、来場者が増えている。	

○	高級レストラン (スタッフ)	来客数の動き	・人流が回復しつつあることで、売上が幾分回復してきている。ただ、大人数宴会については回復までもう少し時間が掛かることになる。
○	高級レストラン (スタッフ)	来客数の動き	・観光客、特に外国人観光客を中心に来客数が徐々に増加している。新型コロナウイルスの感染症法上の分類が5類に変更されたこと、台湾からの直行便が再開されたこと、大型クルーズ船の寄港が続いていることが要因とみられる。
○	観光型ホテル (経営者)	来客数の動き	・国内客、外国人客共に堅調な予約動向となっている。ただ、コロナ禍前の水準にはいまだ回復していない。本来であれば2019年を上回る来客数でもおかしくない状況であるため、景気が回復しているとは言い難い。
○	旅行代理店(従業員)	販売量の動き	・問合せ件数や販売量が2019年比で約7割の水準まで回復している。
○	タクシー運転手	来客数の動き	・5月31日に当地のタクシー運賃が約14%引き上げられたことから、6月のタクシー1台当たりの売上は20%ほど増えている。コロナ禍前の2019年と比べても20%以上増えている。ただ、乗務員不足でタクシーの稼働が前年比で15%、2019年比で50%落ち込んでいるため、会社の売上は前年から5%ほどのプラスにとどまっている。2019年との比較では30%の減収となっている。
○	タクシー運転手	来客数の動き	・ゴールデンウィーク以降、人の流れが従来の8~9割近くの水準に戻りつつある。ただ、ここに来て新型コロナウイルスの感染状況を心配する声もみられるようになっているため、今後の動向を注視したい。
○	タクシー運転手	来客数の動き	・イベントなどの開催が増えたことで人の動きが良くなっている。
○	観光名所(従業員)	単価の動き	・3か月前はとにかく観光をという客の雰囲気があり、6月よりも多い利用人数がみられたが、売上も客単価も6月の方が上回っている。新型コロナウイルス感染症の収束に伴って、客の行動意欲も消費意欲も上向きになっている。
○	美容室(経営者)	来客数の動き	・3か月前から売上及び来客数の回復傾向が継続しており、コロナ禍前の水準まで回復している。
○	その他サービスの動向を把握できる者[フェリー](従業員)	来客数の動き	・予想していた輸送量を若干下回っているものの、コロナ禍が明けたことで順調に回復している。
□	商店街(代表者)	お客様の様子	・最近の状況を見ると、客の反応が良くなっている傾向がみられる。
□	スーパー(店長)	販売量の動き	・水着、浴衣、行楽用品など、コロナ禍で低迷していたカテゴリの売上は顕著に伸びている。一方、空調機器など、コロナ禍で大きく売上を伸ばしたカテゴリは低迷している。トータルでの売上は微増にとどまっている。
□	スーパー(店長)	販売量の動き	・昨今の物価の上昇傾向が続く限り、見通しは厳しい。
□	スーパー(店長)	単価の動き	・卵不足が影響して来客数が増えているが、客単価、買上点数が上向いてこない。
□	スーパー(店長)	販売量の動き	・来客数が前年比104%となっているのに対して、販売点数は前年比98%にとどまっている。これは平均買上点数が前年の11点に対して、今年は10点となっており、前年よりも買上点数が1点減っていることが要因とみられる。物価高に伴う節約志向が依然としてみられており、競合店の価格と比べながら買い回りを客が増えている。売場にいると、他店よりも100円高いからここでは買わないといった客の声を聞くことがあり、店内で他社のレシートを見掛けることもある。
□	スーパー(役員)	お客様の様子	・ポイント付きセールやシニア割引セールなど、お買い得な日の売上が顕著に増加していることから、客の節約志向が強まっている様子がうかがえる。
□	コンビニ(エリア担当)	来客数の動き	・観光客や出張中のビジネス客の利用が増加しているが、日常的に利用している客は必要な商品だけを購入する動きにとどまっており、変化がみられない。

□	衣料品専門店 (経営者)	お客様の様子	・旅行など、非日常のための消費は行われているものの、日常的な商材については積極的な購買行動がみられない。
□	衣料品専門店 (エリア担当)	来客数の動き	・気温の変化に合わせて、来客数、販売点数が変動する傾向がみられる。つまり、季節要因で需要が増加することはあっても、それ以外の要因で来客数が伸びていないことから、景気は変わっていない。
□	乗用車販売店 (従業員)	販売量の動き	・新型車が発表されたが、生産台数に制約があったことから、希望数を下回る割当てとなり、発表会前に割当てを消化してしまう状況であった。生産台数が増えるようになれば、景気は良くなる。
□	自動車備品販売店 (店長)	お客様の様子	・物価が上昇している一方で、所得が上昇していないことから、景気は現状維持又は若干の下向きとみられる。
□	その他専門店 [ガソリンスタンド] (経営者)	販売量の動き	・石油製品価格が高止まりしていることから、客の節約志向が強くなり、厳しい販売量となっている。
□	高級レストラン (スタッフ)	販売量の動き	・売上がコロナ禍前の50%を超えそうで超えない状況が続いている。来客数が増えているため、繁忙感が強いが、客単価が相変わらず低い。スタッフ不足も否めず、質の高いサービスの維持も難しくなっている。地方の店舗や宿泊施設も客が増えているのに、スタッフが集まらないため、受入れ人数や営業を制限しており、もったいない状況にある。
□	旅行代理店 (従業員)	販売量の動き	・3月頃から需要が上向いているが、更なる上乗せまではみられない状況である。また、海外旅行の販売量はコロナ禍前の水準にはほど遠い状況にある。
□	タクシー運転手	来客数の動き	・日中の利用者はある程度増えてきたが、夜間の利用者にはほとんど変化がみられない。繁華街では、中国や韓国、台湾などのアジアからの観光客が増えているようだが、ただ目立つだけで、タクシーの利用が急増するような状況にはない。
□	住宅販売会社 (経営者)	単価の動き	・ウッドショックも落ち着き、木材合板の価格が低下している。ただ、値上がり幅が半分程度まで縮小している状況であり、ウッドショック前の水準までは戻っていない。
□	住宅販売会社 (経営者)	お客様の様子	・分譲マンションのモデルルームを来訪する客の購買意欲は高く、商談に要する時間も比較的短い。
▲	一般小売店 (経営者)	来客数の動き	・家の中で使うような商材に対する消費が抑えられている。
▲	スーパー (企画担当)	お客様の様子	・新型コロナウイルスの5類感染症移行後、週末の集客が鈍くなっている。外食需要の高まりもあって、客の選択肢が増えていることが要因とみられる。
▲	衣料品専門店 (店長)	来客数の動き	・週末は近くの道が混み合うなど、にぎわっているように見えるが、郊外に向かう車ばかりで、当店への来店にはつながっていない。
▲	乗用車販売店 (経営者)	販売量の動き	・販売量に弱さが出てきている。半導体問題の影響ではなく、客の購買意欲の問題とみられる。これまで我慢を強いられていた旅行や娯楽に活発な動きが出ている反面、物価高騰のあおりで高額商品への購買意欲が低下している。
▲	乗用車販売店 (従業員)	販売量の動き	・例年、夏場に落ち込みがみられることに加えて、新型車の発売を間近に控えていることもあって、販売台数が目標の6割にとどまっている。納車に時間が掛かることで売上も立ちづらく、全社を通じて厳しい状況にある。
▲	住関連専門店 (役員)	販売量の動き	・客単価が上昇しているが、来客数の減少と販売量の低下によって、売上が前年から大きく落ち込んでいる。
▲	その他専門店 [医薬品] (経営者)	単価の動き	・医薬品小売業界は空前の不況に入ったようだ。調剤部門は安定しているが、医薬品は2020年をピークに尋常ではない落ち込みとなっている。
▲	その他専門店 [造花] (店長)	お客様の様子	・景気が上向きような要因が見当たらない。景気は現状維持又は下向きでの推移となっている。

	▲	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・旅行需要はこれまでの急激な増加からの反動減がみられている。出張などのビジネス需要は増加しているものの、ホテルの宿泊費が上昇を続けていることから、見積りだけで終わる客が増加している。
	▲	通信会社（企画担当）	販売量の動き	・通信機器の販売から、附帯するキャッシュレスサービスにシフトしつつあることもあって、一定の販売量減少を見込んでいたものの、想定外の7割程度の販売量まで落ち込んでいる。特に専門店での落ち込みが大きく、数店舗の閉鎖を検討せざるを得ない状況にある。
	▲	美容室（経営者）	お客様の様子	・物価上昇の影響で消費に消極的になっているとの話を客から聞くことが増えている。
	×	スナック（経営者）	来客数の動き	・当店は年配客が多いため、新型コロナウイルス感染症などの問題がいまだに影響しており、客足が減っている。そのため、明るい話題がなかなか見込めない。
	×	タクシー運転手	販売量の動き	・昼間の売上はコロナ禍前の水準まで回復したものの、夜間、特に深夜の客出が伸び悩んでいる。コロナ禍のライフスタイルが固定化しつつある。
	×	通信会社（エリア担当）	それ以外	・携帯電話業界全体の構造的な問題もあって景気は悪くなっている。販売代理店政策が悪化している状況にある。
	×	通信会社（エリア担当）	それ以外	・通信キャリアの政策が影響して、景気は悪くなっている。
企業動向関連	◎	*	*	*
(北海道)	○	通信業（営業担当）	取引先の様子	・人流の増加に伴って、今後の売上増加に向けて設備投資への意欲が高まっているとの話を各方面の客から聞く機会が増えている。
	○	金融業（従業員）	取引先の様子	・原材料価格及びエネルギー価格が高騰していることで製造業や卸売業の業績は低調に推移しているものの、観光関連、飲食サービス関連の食品製造業、ホテル・旅館業、運輸業などの業況が回復傾向にある。
	○	その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	受注量や販売量の動き	・6月の当社の売上は前年比で微増にとどまっているものの、北海道全体では都市圏を中心に建設投資が堅調に推移している。ただ、地域によるばらつきもみられる。
	○	その他サービス業〔建設機械リース〕（営業担当）	受注量や販売量の動き	・公共工事、民間工事共に、建設投資は堅調に推移している。
	□	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・3か月前や前年と比較しても、売上がやや悪い状況となっている。
	□	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・6月の販売量は前年比マイナス36%であった。3月の販売量は前年比マイナス51%であり、3か月前と比べると数字は改善しているが、引き続き厳しい状況にある。
	□	建設業（従業員）	受注量や販売量の動き	・建設需要について、民間工事は案件が少なく、公共工事はあったとしても規模が小さくなっている。建設業全体としては需要が縮小傾向にある。
	□	建設業（役員）	受注量や販売量の動き	・技術職員の現場配置が完了したが、フル稼働の状況に変わりはない。都市部では再開発に伴って民間建築の見積依頼、引き合いが多くみられるものの、人手不足と建設コスト高から応じきれない状況にある。
	□	輸送業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・紙パルプの輸送量がなかなか回復してこない。製品と原材料の輸送が共に伸びてこないため、大きな影響が生じている。砂糖やでん粉などの農産関連製品には少し動きがみられるものの、雑貨のトレーラー輸送も低調である。各商品の値上げもあって、駆け込み需要と需要停滞を繰り返している状況にある。
	□	広告代理店（従業員）	取引先の様子	・新型コロナウイルスの5類感染症移行に伴う各種イベントの再開や旅行需要の拡大などで人の動きが活発になっていることから、生活必需品や公共料金の値上げが相次いでいることから、景気はプラスマイナスゼロでの推移となっている。客先も広告費や販売促進費などの経費を引き締める動きがずっと続いている。

		司法書士	取引先の様子	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルスへの感染対策が緩和されたことで、週末の飲食店にはにぎわいが戻ってきた。観光客が増加していることで宿泊施設では安どの声が聞こえるようになってきたが、人手不足への不安も出てきている。全体的には景気回復局面に転じつつあるが、諸物価の上昇がいまだに続いていることで個人消費にブレーキが掛かっているため、景気が回復するまで時間が必要な状況である。</li> </ul>
		司法書士	取引先の様子	<ul style="list-style-type: none"> <li>取引先の観光バス関連事業者から、インバウンド需要が徐々に回復傾向にあるとの話を聞いているものの、電気料金や原油高、物価の上昇が続いており、プラスとマイナスが相殺するような状況にある。そのため、今後しばらくは景気に大きな変化はないとみられる。</li> </ul>
		その他非製造業 [鋼材卸売] (従業員)	受注量や販売量の動き	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画初期の見込みと比べれば、売上は順調に伸びているものの、ベース商品の動きが落ち着いているため、景気は変わらない。</li> </ul>
		農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	<ul style="list-style-type: none"> <li>6～8月は農産物の端境期となるため、景気はやや悪くなっている。</li> </ul>
		金属製品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	<ul style="list-style-type: none"> <li>5月の新築住宅着工棟数が前年比81.9%と落ち込んでいる。1月からの累計でも前年比86%であり、前年からの落ち込みが止まらない状況にある。さらに、塗料やこん包材など、資材の値上げも止まらない。</li> </ul>
		—	—	—
		—	—	—
雇用 関連 (北海道)	◎			
	○	学校 [大学] (就職担当)	求人数の動き	<ul style="list-style-type: none"> <li>2024年新卒者の内定獲得率はこの3年間で最も高く、大学に求人を出す業種も幅広く広がっている。ただ、実態は2020年新卒者採用の頃の状況によく戻っただけであり、辛うじて苦境から脱出できているだけともいえる。企業の採用担当者からは、道民の購買力が回復しつつあるとの意見が多くみられるが、コロナ禍前の状況に戻っただけともいえる。</li> </ul>
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	周辺企業の様子	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在の求人広告の動きから、タクシーやトラックなどの輸送業界が業界全体で人材確保に苦心している様子が見える。募集広告の結果からは、深刻な状況になりつつあることもうかがえる。小さな会社では管理職も現場に駆り出されている。</li> </ul>
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	雇用形態の様子	<ul style="list-style-type: none"> <li>アルバイトやパートの求人数が減っている一方で、正社員の求人数が増えている。人材獲得が難しくなっているなか、アルバイトやパートの時給が上がっていることで、正社員への切替えが進んでいるように見える。新卒採用の動きも例年より早まっている。</li> </ul>
	□	職業安定所（職員）	それ以外	<ul style="list-style-type: none"> <li>物価上昇が収まらず、物価上昇に見合うだけの賃金上昇もみられないなど、景気が良くなる要素がない。</li> </ul>
	□	職業安定所（職員）	求職者数の動き	<ul style="list-style-type: none"> <li>5月の新規求職者数は前年から4.7%の増加と2か月ぶりに増加したが、有効求職者数は10か月連続で減少している。また、新規求人数は前年から25.0%の減少と4か月連続で減少したが、業況堅調な企業からの求人が引き続きみられている。</li> </ul>
	▲	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	<ul style="list-style-type: none"> <li>業種を問わず、求人数は横ばい若しくは微減傾向で推移している。</li> </ul>
	▲	求人情報誌製作会社（編集者）	周辺企業の様子	<ul style="list-style-type: none"> <li>人手不足感が強いにもかかわらず、掲載申込件数が減少している。物価や原材料価格の高騰が影響しているとみられることから、この動きはしばらく続く見通しである。</li> </ul>
	▲	職業安定所（職員）	求人数の動き	<ul style="list-style-type: none"> <li>当地における5月の有効求人倍率は0.88倍であり、3か月前との比較では0.08ポイント下回った。</li> </ul>
	×	*	*	*